

# 北海道社会学会ニュース

## H.S.A.NEWSLETTER

発行：北海道社会学会事務局

〒060-0906 北海道札幌市東区北6条東3丁目3-1 サッポロ63ビル6階  
北海道NPOサポートセンター気付

FAX: 011-299-6941 E-mail: socio@npo-hokkaido.org 担当 畑  
郵便振替口座 02760-3-3085 URL <http://wwwsoc.nii.ac.jp/hsa>

HOKKAIDO SOCIOLOGICAL ASSOCIATION

c/o Hokkaido NPO Support Center,

Sapporo 63 Bldg., Kita 6 Higashi 3 3-1, Higashi-ku,

Sapporo, 060-0906 JAPAN URL <http://wwwsoc.nii.ac.jp/hsa/>

編集責任者：西浦功（庶務理事） 北翔大学人間福祉学部 nishiura@hokusho-u.ac.jp

〒069-8511 江別市文京台23番地 TEL 011-386-8011（代表） FAX 011-387-3692（人間福祉学部共同研究室）

### 第 59 回北海道社会学会大会について

原 俊彦（研究活動委員長）

第 59 回北海道社会学会大会は、2011 年 6 月 4 日（土）・5 日（日）に天使大学（札幌市東区）で開催されました。今回は例年より 2 週間ほど早い開催となりましたが、15 本の一般研究報告があり、三部会編成となりました。

シンポジウムは「病‘縁’化社会のゆくえー新たな絆>ネットワークングにむけて」をテーマに開催されました。当初予定していた第一報告者急病のため、地域医療の現場からの報告に代わり精神看護分野での医療福祉の状況報告とカナダの病院ボランティア活動の事例報告があり、これらを受けて医療化・個人化・病縁化についての考察がなされ、新たな絆>としての「病‘縁’化」か、一層の過剰医療化の進行かを巡り、活発な議論がかわされました。また初日、夕刻の懇親会も、大学最寄りのレストランで、アットホームな雰囲気の中、開催され、なごやかな交流のひとつ時を過ごすことができました。参加者は会員 47 名、非会員 4 名（計 51 名）でした。

大会運営にあたって下さった天使大学の田島忠篤会員、大学関係者、学生の方々のご尽力に末尾ながら改めて謝意を表します。

### 第 59 回北海道社会学会総会について（第 59 回北海道社会学会総会議事抄録）

日時：2011 年 6 月 4 日（土）17:10～17:50

会場：天使大学 6301 番講義室

議長：鹿又伸夫会員

#### 報告

1. 庶務報告（高田庶務理事）

1-1. 会員異動（2010 年 6 月～2011 年 6 月）

新入会員 3 名・退会会員 9 名（うち自然退会 4 名）の計 6 名減で、6 月 4 日現在の会員数は一

般会員 122 名・学生会員 30 名の計 152 名。

1-2. 理事会開催

2010 年 12 月、2011 年 3 月、6 月の 3 回およびメールによる持ち回りで随時開催した。

1-3. 会報の発行

4 号発行（No. 84～87）した。

1-4. 学会研究奨励賞の交付

応募者 1 名、交付者 1 名

1-5. その他

『現代社会学研究』21 号以降の電子化について、現在 JST（科学技術振興機構）の j-stage に公開できるように準備中。

来年度以降のホームページサーバーについて、業者を選定中。

2. 研究活動委員会報告（原研究活動委員長）

今回大会のシンポジウム開催を企画・運営した。

3. 編集委員会報告（井上編集委員長）

『現代社会学研究』第 24 巻を編集・発行した。

4. 選挙管理委員会報告（木戸選挙管理委員長）

2011 年 5 月 10 日に役員選挙を行い、5 月 16 日に新役員が選出された。

新役員の役割分担（高田庶務理事）

会長：櫻井義秀

副会長：原俊彦

研究活動委員会：平沢和司（委員長）・小内透・高田洋\*

編集委員会：飯田俊郎（委員長）・小内純子・木戸功・中田知生\*・野崎剛毅\*

会計担当理事：高橋徹

庶務担当理事：西浦功

監事：笹谷春美\*・井上芳保\*

（敬称略、\*は理事外、新役員・委員の任期は大会終了の翌日より 2 年後の大会終了日まで）

5. 次回第 60 回大会開催校について（小内会長）  
國學院大學北海道短期大学部（滝川市）に決まり、

小内会長より紹介、開催責任者となる野崎会員より挨拶があった。

#### 議題

1. 2010 年度決算（笹谷会計理事）  
提案（後掲）のとおり承認された。
2. 2011 年度予算案（笹谷会計理事）  
提案（後掲）のとおり承認された。
3. 編集・投稿規定の改定案について（井上編集委員長）  
「編集・投稿規定」に「12. 会員が掲載論文等を機関リポジトリ等に転載する場合には、事前に編集委員会事務局に文書やメールにて照会を行なうこと。」を加えることが承認された。
4. その他  
学会大会運営の簡素化について意見が出された。

### 第 3 回理事会（新旧合同理事会）報告

日時：2011 年 6 月 4 日（土）12:00～13:30  
会場：天使大学 1105 講師室  
出席者：小内（透）会長、櫻井副会長、原・井上・松岡・梶井・笹谷・高田の各理事（欠席：杉岡理事）に加え、平沢、小内（純子）、飯田、木戸、西浦、高橋の新選出理事

#### 報告

上記の総会における議題と同じ。

#### 議題

- 上記の総会における議題のほかは以下の通り。
1. 引き継ぎ事項の確認について（高田庶務理事）  
新旧理事の引き継ぎについて確認された。

### 北海道社会学会会長就任にあたって

櫻井義秀

#### 会員の皆様

この度、北海道社会学会会長の役目をおおせつかりました北海道大学の櫻井義秀でございます。新理事の先生方と共に、学会の諸業務を担当致しますので、よろしく申し上げます。

本学会は 60 年近くの歴史を誇る学会ではありますが、近年、会員の皆様がお感じになっているように、会員の年齢構成が現代社会を反映したものになってきております。大学院生を除けば、若手・中堅どころの新入会員があまり増えず、会長経験者が再度理事の職務に就くこともあり、適当な時期での世代交代がスムーズに進まなくなっております。この問題は容易に解決しないだろうと思っておりますが、熟年

の域に達した学会に相応しく、息の長い活動を継続するために、学会大会や学会誌のあり方を理事・会員のみならずと検討していきたいと考えております。

学会大会と学会誌の維持継続は学会活動の柱ですが、前者については簡素な大会開催が必要ではないかと考えます。会員の皆様に快く大会開催校をお引き受けいただくためにも、学会大会の必要にして十分なスリム化の方策を研究活動委員の先生方を中心にお考えいただきたいと考えております。

また、今号の学会誌は多彩なく往来のレポートにより会員の研究活動をよりよく知ることができましたが、このような編集方針を維持していただき、若手・中堅どころの研ぎ澄まされた論文に加えて、円熟世代の味わい深い小論も続々掲載されるよう編集委員の先生方にも企画をお願いしておきます。

所信表明やお願いのような文章がご挨拶に相応しいかどうかは分かりませんが、昨今、私たちはなかなか忙しく、膝を交えて話をするような機会を持つこともできませんので、会長をお引き受けしてからの 1, 2 週間で考えたことを書かせていただきました。

これからの 2 年間、なにとぞよろしく申し上げます。（2011 年 6 月 15 日記）

### 第 59 回大会シンポジウム「病‘縁’化社会のゆくえ — 新たな絆ネットワークにむけて」について

原 俊彦（札幌市立大学）

今回のシンポジウムのテーマ「病‘縁’化社会のゆくえ」は、組織者の田島忠篤氏（天使大学）、当日司会を務めた筆者がともに医療看護系大学に在職することが契機となり発案されたものである。「少子高齢化が進む中、社会の主要な関心が健康とその裏返しとしての病へと集中し、日常生活全体が『健康・医療』を中心に組織・管理されつつある。しかし、その一方で、病院ボランティアや難病支援団体の活動、あるいは病院を中核とする地域づくりなどの動きは、従来の血縁、地縁、仕事縁などに代わる新たな「絆」として、新しい社会ネットワークの核となりつつあるのではないか。」と考え、その可能性を探ることを目的とした。

第 1 報告は当初予定の田中恭介氏（社会医療法人友愛会・恵愛病院）による「老人中心の地域社会の中で『縁』や『絆』をどうやって持続し創りあげていくか？」に代わり、守村洋氏（札幌市立大学）の「精神に障害を抱える人にとっての、精神科医療とは精神保健福祉とは」であった。わが国の精神科医療・看護の現状、精神保健福祉法に沿った「地域を

拠点とする共生社会の実現」に向けての「入院医療中心から地域生活中心へ」の取り組みなどについて報告がなされた。

第2報告では「病院ボランティア行為者のネットワークは病院を変えていくのか?—協調と葛藤の狭間から—」と題し、竹中健氏(天使大学)が、長年にわたる研究蓄積をもとに北海道の断酒会や病院ボランティアの国内海外事例を報告した。これらの事例は既存組織の下請け化、既存組織の中での新たな展開、既存組織を変容させてゆくという3タイプに分類されたが、とりわけ最新のカナダ・オンタリオ州の病院ボランティアの事例は、新しい社会ネットワークの形成という観点から興味深い展望を与えるものであった。

第3報告では野口裕二氏(東京学芸大学)が「医療化・個人化・病縁化」と題し、自身の研究の流れに沿い「病縁化社会」という問題の取らえ方について考察し、社会関係を形成する契機として「病い」の果たす役割が大きくなる社会という意味では十分可能であることを、「医療化」と「個人化」という二つの社会変動の側面から論じた。

これらの報告を受け、コメントの川又俊則氏(鈴鹿短期大学)から自身の看護師・保育士研究などの知見も踏まえ各質問者にコメントと質問がなされ、その後フロアーからの質問含め活発な質疑が交わされた。とりわけフロアーからは「病‘縁’化」を問う前に、検査産業化し「病い」を作り出している過剰医療の方を問題にすべきではないか、「病‘縁’化」現象は医療化の新しい展開なのか、あるいは「脱・医療化」、「抗医療化」と考えるべきではないかといった貴重なコメントがあった。「病‘縁’化」は、そのような負の側面と、新しい社会ネットワークの形成という正の側面がコインの両面のように同時進行して行くのではないかということが、このシンポジウムによって初めて提起されたといえよう。

## 委員会報告

### 編集委員会(飯田編集委員長)

#### 『現代社会学研究』第25巻(2012年6月発行予定)の原稿募集について

##### ① 投稿原稿の募集

『現代社会学研究』第25巻の投稿原稿を募集します。投稿を希望される方は、学会ホームページから「投稿申込書」をダウンロードし、必要事項を記入の上、学会事務局(socio@npo-hokkaido.org)に宛ててメールの添付書類で送信してください。その際の

添付ファイル名は「投稿申込〇〇.doc」(〇〇には申込者の氏名を入れる)としてください。申込の締切は、8月31日(水)まで(同日必着)とします。申込者には数日のうちに事務局から申込書受理のメールが返信されますので確認してください。申込の時点で2011年度までの会費が完納されていないと申込は受理されませんのでご注意ください。

原稿の提出締切は10月31日(月)です。分量は従来通り、400字詰50枚(20,000字)以内で特に変更はありません。その折に学会ホームページから「投稿カード」をダウンロードして添えてください。その他の詳細は同誌巻末に記載されている「編集・投稿規程」および「執筆要項」を熟読してください。

##### ② 書評対象書の募集

『現代社会学研究』第25巻に書評を掲載する対象書を会員の皆様から広く募集します。自薦他薦を問いません。会員の著作(会員の単著、または会員が編著者になっているものが原則)で書評として是非取り上げて欲しいものがありましたら、その書誌情報(著者名、書名、発行年、版元名)を学会事務局(socio@npo-hokkaido.org)までお寄せください。自薦の場合は、書評を書いて欲しい会員名、リプライ付を希望するか否かについてもお伝えください。またできれば書籍現物もお寄せください。特に指名がない場合は執筆者を編集委員会で決めます。当該書の発行時期は必ずしもこの一年間でなくても構いません。過去数年に刊行されたもので、書評対象とするのにふさわしいと思われるものについても可とします。締切は、10月31日(月)(同日必着)とします。

情報を集約の上、編集委員会で検討して掲載の是非を決め、結果をご連絡します。

##### ③ 書評原稿および「往来」原稿の募集

第24巻に引き続き書評原稿を募集します。必ずしも書評という形式ではなく、その書籍の内容に何らかの形で言及しながらある研究テーマについて展開する内容となっても構いません。また海外事情の紹介やある分野についての最近の研究動向などに触れた「往来」の原稿も募集します。いずれも学術的な内容であることを条件とし、分量は3,000字程度、締切は、10月31日(月)(同日必着)とします。学会事務局(socio@npo-hokkaido.org)までお寄せください。メールの添付書類で送信してください。その際の添付ファイル名は「書評投稿申込〇〇.doc」ないし「往来投稿申込〇〇.doc」(〇〇には申込者の氏名を入れる)としてください。但し投稿された原稿の取り扱いについては編集委員会にご一任ください。

「往来」については投稿が少ない場合などには編集委員会から個別にお願いすることもあり得ます。その折にはどうかよろしくご対応お願いします。

### 北海道社会学会研究奨励金について

北海道社会学会では社会学研究の活性化と若手の育成を目的として、2006年より研究奨励金を交付しています。ついては下記により奨励研究を募集いたします。ぜひご応募ください。

1. 募集件数：2件（1件5万円）
2. 応募資格：本会会員（若手単独が望ましい。若手とは、自分で科学研究費申請ができない地位にある大学院生や大学院修了者等を指す）
3. 条件：奨励金交付後2年以内の本学会大会での研究発表、および2年以内の『現代社会学研究』への投稿を条件とします。
4. 応募方法：まず応募用紙を庶務理事あて e-mail でご請求ください。ついで応募用紙に下記を記入し、庶務理事まで郵送により提出してください。  
①研究テーマ、②応募者（氏名・所属）・郵便番号・住所・TEL・FAX・e-mail アドレス、③研究の目的と「社会学研究」としての意味・位置づけ等（具体的に）、④研究の方法と予想される成果（具体的に）、⑤指導教員のサインと印

5. 提出期限：2011年10月28日（金）必着
6. 提出先・問い合わせ先：西浦功（庶務理事、あて先は1ページ参照）

### 会員異動（2011年6～7月）

（ホームページ公開版では省略）

### 会費の納入について

2011年度会費または未納分会費について、同封の郵便振替用紙〔郵便振替口座 02760-3-3085〕にてすみやかに振り込み手続きをお願いします。年会費は一般会員 6,000 円、学生・院生会員 4,000 円です。2011年度会費を納入されていない方には、機関誌第 24 巻（本年 6 月発行）をお渡しできません。5 年間滞納されると、自然退会の扱いとさせていただきます。

### 第 59 回大会会計報告・2010 年度決算・2011 年度予算案

（ホームページ公開版では省略）